

平成23年2月8日『県政タウンミーティング(上田市)テーマ:地域で支える子育ての推進について』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	
参加者発言内容	知事等発言内容		所管課
<p>【発達障害時への支援について(その1)】</p> <p>発達障害児への学校の外、学校の中での支援を教えてください。</p>	<p><知事></p> <p>学校の中では、教育の仕方等技術的な面も含め徹底していく必要がある。</p> <p>学校の外では、北信や駒ヶ根で早期発見・早期対応に取り組んでいるが、全県的な仕組みはよく考えていきたい。</p> <p>医療的な側面での発達障害児への対応も強化していくこととなっているので、関係者で協力体制を組んで取り組んでいきたい。</p>	<p>発達障害児等総合支援事業</p> <p>・支援力アップ出前研修を実施する中で、学校力の向上を図り、ご意見の趣旨が反映されるよう努めます。また、校外の地域支援体制整備に向けて、健康福祉部等関係部局との連携を図るよう努めます。</p> <p>・学校と地域の病院や福祉・保健サービスの各分野が連携した取り組みが強化されるように、発達障害者支援に精通した関係者による検討会を開催します。</p>	<p>教育委員会事務局 特別支援教育課</p> <p>健康福祉部 健康長寿課</p>
<p>【児童公園の遊具について】</p> <p>児童公園の遊具は撤去されたまま、その後何もされていない。子どもが少ない状況ではあるが、みんなで知恵を出して作るべき。</p>	<p><知事></p> <p>危なそうなところを一番知っているのは親。行政だけでなく、皆さんの声を反映できる仕組みが重要。</p>	<p>・安心子ども基金事業補助金を活用することにより、老朽化した遊具の更新が可能であります。実施主体は市町村になりますので、まずは市町村にご相談願います。</p>	<p>健康福祉部 子ども・家庭課</p>
<p>【子育て相談のためのコミュニティについて】</p> <p>思春期の子育てに悩みを抱える女性が、夫(男性)も一緒に出て来れるようなコミュニティがあればいいと思う。</p>	<p><金原子ども・家庭課長></p> <p>確かに思春期の悩みを相談する場の提供は少ない。いろいろな人が話せる場を作ることが重要。</p> <p>子育ての話が中学や高校教育の中で話すことは大切だと思う。</p>	<p>・市町村による相談・交流体制の充実を促進するとともに、ながの子ども・子育て応援県民会議で推進している「子育て団体応援ネットワーク事業」等を通じてNPOなど地域の様々な担い手の連携を強化していきます。</p>	<p>健康福祉部 子ども・家庭課 企画部 企画課</p>
<p>【就労支援と子育てについて】</p> <p>保育園等の受入や時間延長は就労面での支援にはなっていない、子育ての支援になっているのか疑問。</p> <p>他県では生活保護世帯の生徒への学習支援を始めたそうだが、長野県ではどう考えているか。</p>	<p><知事></p> <p>就労支援としての子どもの居場所と子どもにとっての最善の居場所は、必ずしも一致していないのではないかと。どういう形が良いのか、両方を意識しながら考えなくてはならない。</p> <p>生活保護世帯への学習支援については、「新たな公共」、行政が直接やるのではなく、地域の人達等が参入できる仕組みを作っていくのが良いと思う。</p>	<p>・保育所や放課後児童クラブが実施する保育の質の向上及びサービス内容の充実については、引き続き市町村に働き掛けていくとともに、ながの子ども・子育て応援県民会議を通じ、企業と連携し仕事と子育てが両立できる社会に向けて取組みを行っていきます。</p> <p>・県では、地域の実情に応じて、学校と地域が連携し地域住民が学校教育活動を支援する体制づくりを行う市町村の取り組みを支援しています。今後とも、県下全域で子どもたちに対する学習支援を含めた地域住民による学校支援体制づくりが進むよう取り組んでまいります。</p>	<p>健康福祉部 子ども・家庭課 企画部 企画課</p> <p>教育委員会事務局 文化財・生涯学習課</p>

平成23年2月8日『県政タウンミーティング(上田市)テーマ:地域で支える子育ての推進について』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	
参加者発言内容	知事等発言内容		所管課
<p>【養護を必要とする子どもの支援について】</p> <p>一市町村ではできない、社会的擁護を必要とする子どもへの支援を、県としてどう取り組んでいくのか。 里親制度は良い制度だが、知らない県民が多い。啓発をしていくことが大事ではないか。</p>	<p><知事> 社会全体で子どもを温かく包む環境が必要であり、そういう環境にないということは、改善していかなくてはいけない。 行政と県民が一緒になって、温かみのある仕組みを考えていきたい。</p>	<p>・県では老朽化が進んだ児童養護施設の改修、改築に努めており、その際には小規模グループケア形態を導入し、入所児童にきめ細やかな支援を行うための家庭の環境を提供できるよう支援するとともに、県単独事業の職員配置の上乗せ補助を継続してまいります。 ・里親制度の広報・啓発については、従来から実施しているところではあるが、有効な方法について検討してまいります。</p>	健康福祉部 こども・家庭課
<p>【発達障害児への支援について(その2)】</p> <p>就学前の段階で、発達障害の子や困り感を抱えている子ども達をどのように発見していくのか、どのようなシステムを考えているのか。</p>	<p><知事> 北信の巡回方式や駒ヶ根の健診方式があるが、県全体としてどういう方式が良いのか考えていかなくてはならない。 今年、私の問題意識を踏まえ、検討していくこととなっている。</p>	<p>・発達障害の発見にとどまらず、その後の継続的な支援がきちんと提供されるような連携体制のあり方について、発達障害者に精通した関係者による検討会を開催します。</p>	健康福祉部 健康長寿課
<p>【育児で困っていることについて】</p> <p>父親の育児参加は、仕事の帰りが遅く難しいと思う。もう少し帰りやすい世の中になってほしい。</p>	<p><知事> 男性も女性も働きやすい、地域や家庭生活のバランスのとれた社会は進めなければならない。啓発だけでは変わらないので、企業の皆さんにも協力してもらい、考えていきたい。</p>	<p>・ながの子ども・子育て応援県民会議を通じ、企業と連携し仕事と子育てが両立できる社会に向けて気運を高めていきます。また、子育て支援企業の登録や表彰、アドバイザーの派遣等により子育てしやすい職場環境を促進していきます。</p>	企画部 企画課 商工労働部 労働雇用課
<p>自分の住む近くに産科医療機関があれば、次の子も考えやすくなるのではないか。</p>	<p><知事> 産科医療は医師不足が根源的な問題。医師不足の解消や医師のバランス等、全体の中で産科医療、小児科医療のあり方を考えていかなくてはいけない。</p>	<p>・医師不足もあり、県内でもお産ができる医療機関の休止や廃止が生じています。県としては、ドクターバンク事業や医師研究資金の貸与等により、引き続き産科医の確保に努めてまいります。</p>	健康福祉部 医師確保対策室